

大船渡市碁石地区の高所移転 計画支援と集落再生 2019年報告

東京の専門家集団の
「災害まちづくり支援機構」との
共同支援活動

糸長浩司
日本大学特任教授









高所移転候補地

仮設住宅地

お寺

神社

津波被害集落



252 m

ポイント 38° 59' 38.11" N 141° 43' 35.47" E

Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO

ストリーミング 100%

© 2012 ZENRIN © 2007 Google

上空 871 m

東日本大震災津波被災地支援研究

岩手県大船渡市碁石地区の復興と高所移転住宅地計画と建設

2011年12月～2016現在



写真：津波到達時（左），被災直後の様子（右）

表.碁石地区集落別被災実態

建物用途	被害度合	集落名					合計
		西館	泊里	山根	三十刈	碁石	
住宅	全壊	28	28	0	2	13	71
	大規模半壊	3	1	0	0	1	5
	半壊以下	8	1	0	0	0	9
店舗・店舗兼住宅・公共施設等	全壊	2	11	0	0	3	16
	大規模半壊	0	0	0	0	0	0
	半壊以下	0	0	0	0	0	0
合計		41	41	0	2	17	101

*半壊以下：半壊・床上浸水を含む（戸数）

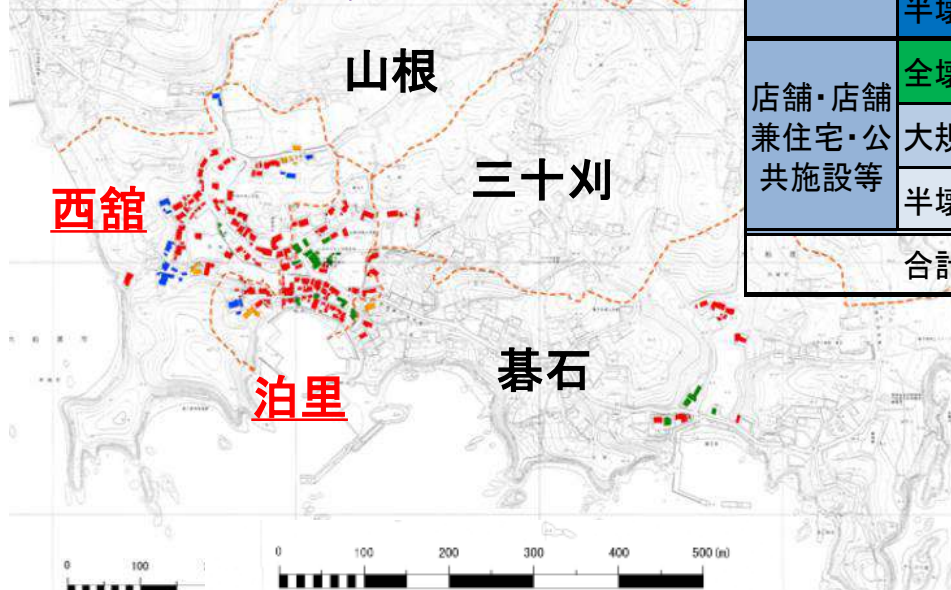
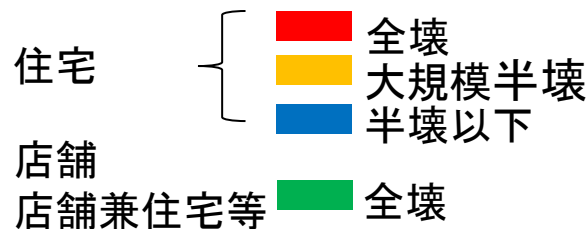


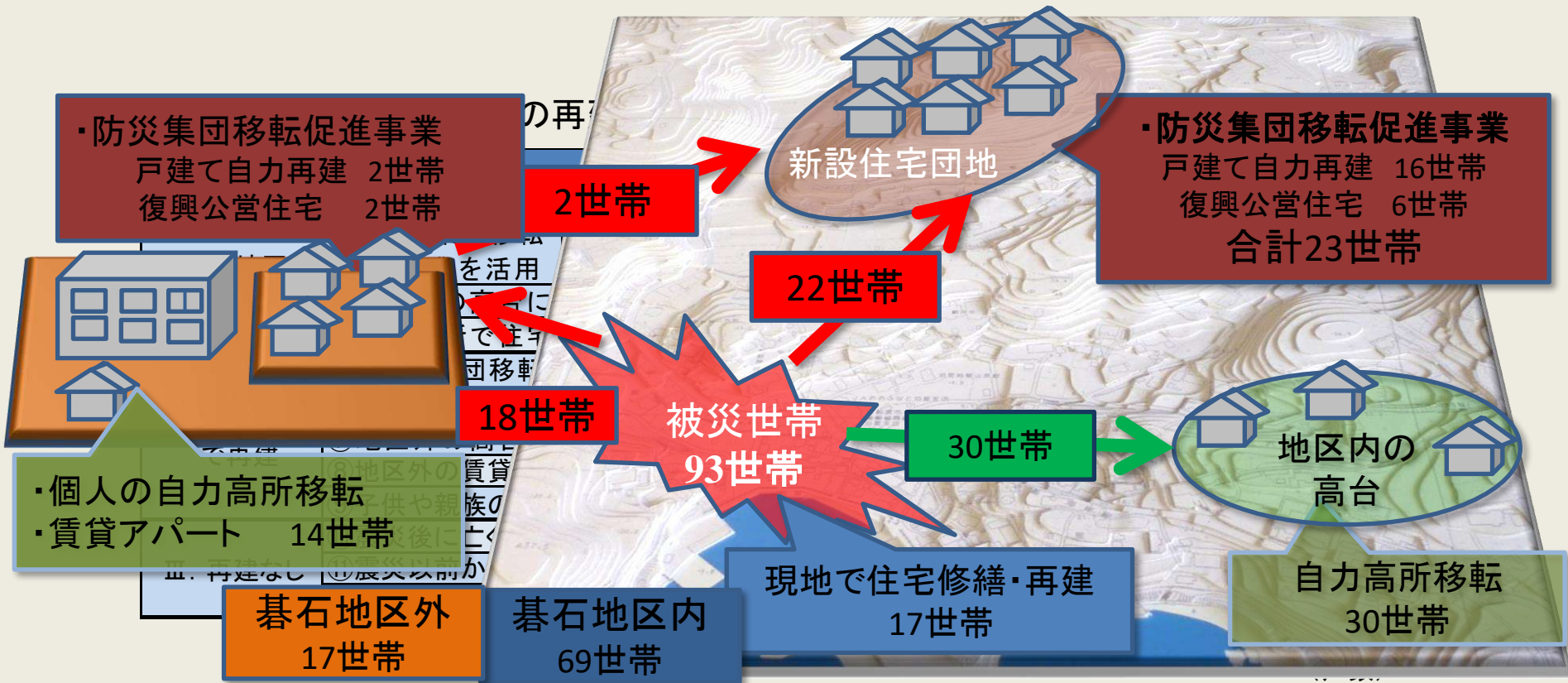
図. 碁石地区5集落被災地図



碁石地区の中心であった西館・泊里地区に被害が集中し、住宅や店舗、漁業施設、公共施設等合わせて101棟が被災した。泊里地区は自治会が解散した。

【被災者による住宅再建方法の選択の調査結果】

碁石地区では住宅や店舗兼住宅において、全壊、大規模半壊等合わせて93棟が被災し、79世帯が地区内、17世帯が地区外での住宅再建を選んでいる。



西館の被災世帯を核とした23世帯が集団移転することで新たなコミュニティを形成する事となる、この計画づくりを支援することで本研究を進めていく。

“復興まちづくり計画”策定への支援体制

基石地区復興まちづくり協議会：38回・住宅復興部会：3回・高所移転住宅建設委員会：19回

基石地区復興まちづくり計画

- ①景観や環境，新旧コミュニティに配慮した住宅地及び住宅再建計画
- ②津波被災地での地域の生業再生や地区としての将来土地利用計画
- ③広域を視野に入れた交通ネットワーク，エコツーリズムの展開

提出

大船渡市役所

地区住民の参画による合意形成に基づく計画案の策定

意見交換

- ・専門知識を要する提案，アドバイス
- ・個別の相談窓口

基石地区復興協議会
(地区住民)

- ・高所移転による住宅再建のためのワークショップ
- ・地域再生復興のためのワークショップ

・生活再建での課題解決の質問，要望等

災害復興まちづくり支援機構
専門士業

連携

日本大学
建築・地域共生デザイン研究室

・再建住宅のモデルタイプ提案

【基石地域復興まちづくり協議会(検討会)】

「リアスの風」
盛岡在住建築家有志

【住宅復興部会】
【高所移転住宅地建設委員会】

協議会，部会等でのWS・アンケート調査等の企画・運営を通じた計画支援により“復興まちづくり計画”を策定。



碁石地区における計画的支援の概要と活動経過

表 日本大学 糸長・藤沢研究室による碁石地区への支援活動

月 日	協議会	防災集団移転促進事業による高所移転・住宅団地再建のための支援
2012年 3月3・4日		①被災住民の住宅再建意向の個別聞き取り
3月18日	第6回	②個別聞き取り結果報告, 高所移転住宅のイメージ提案
4月1日	第7回	③漁業集落環境整備事業による復興再生提案
		④高所移転住宅地模型(1/200)・碁石地区全域地形模型(1/2000)作成
5月12日	第8回	⑤高所移転住宅地模型(1/200)を使用した住宅地配置イメージ検討WS
7月21日	第10回	⑥碁石地区全域地形模型(1/2000), 住宅地模型(1/200)を使用した 住宅地配置イメージ検討ワークショップ
		⑦防災集団移転促進事業による高所移転希望者に対する住宅再建方法意向アンケート
9月1日	第11回	⑧住宅再建意向調査結果報告, 住宅団地の市代替案の提示
		⑨津波被災以前の住宅間取り・敷地使い方アンケート調査
9月29・30日	第12回	⑩高所移転による住宅再建を考える連日WS
		⑪被災前住宅模型2種類作成, 住宅団地空間構成・住宅配置案の図面作成
11月5日	第13回	⑫高所移転による住宅再建を考えるワークショップ part2
		⑬住宅団地の構成要素, 各世帯の敷地・住宅要素の意向確認アンケート

碁石地区の高所移転住宅地は行政と地元代表，住宅再建の専門家による討論と，協議会での確認・修正を重ねながら素案を作成した。

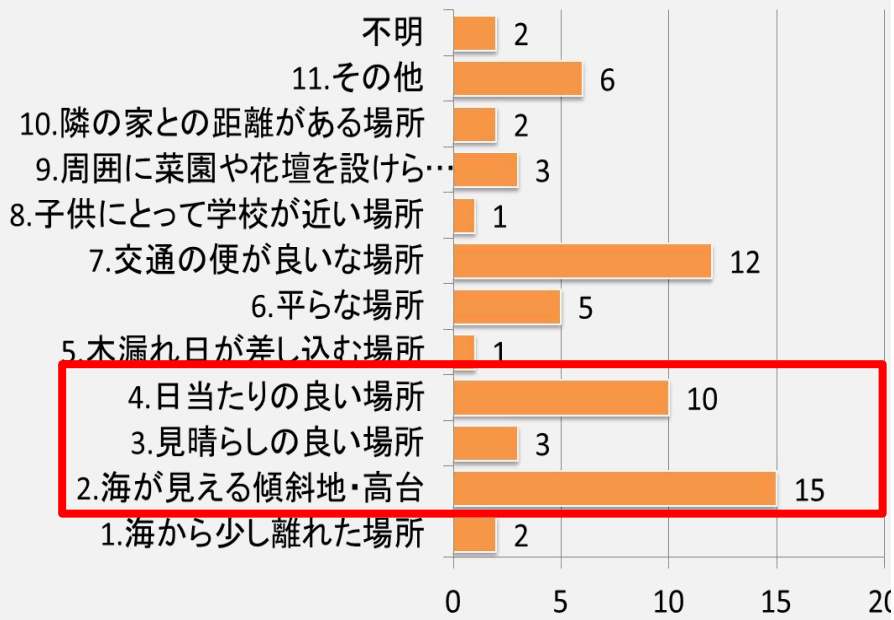


図 住宅を再建したい場所・環境のイメージ (MA)

問題点:海が見えない, 北斜面

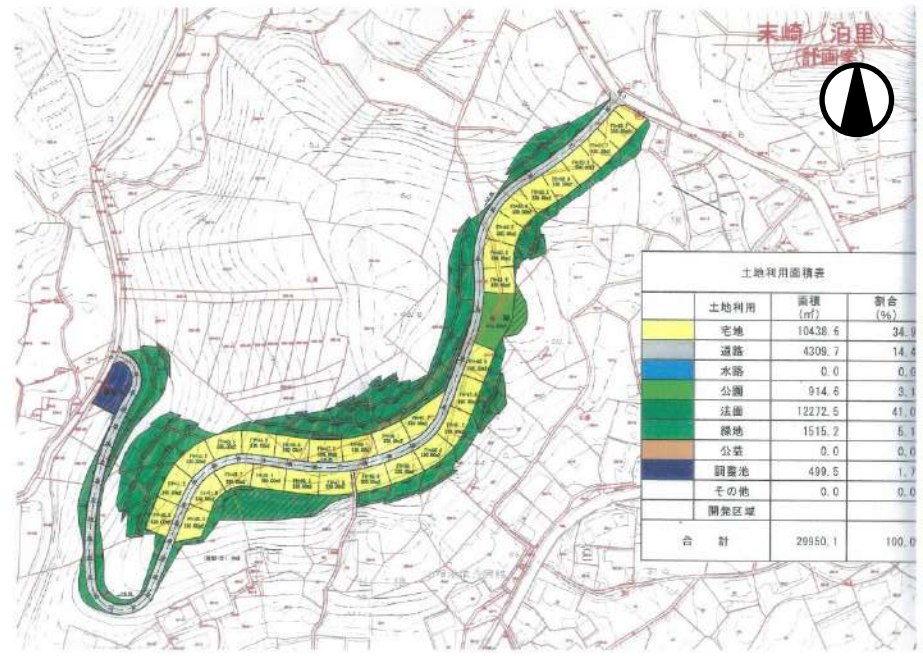
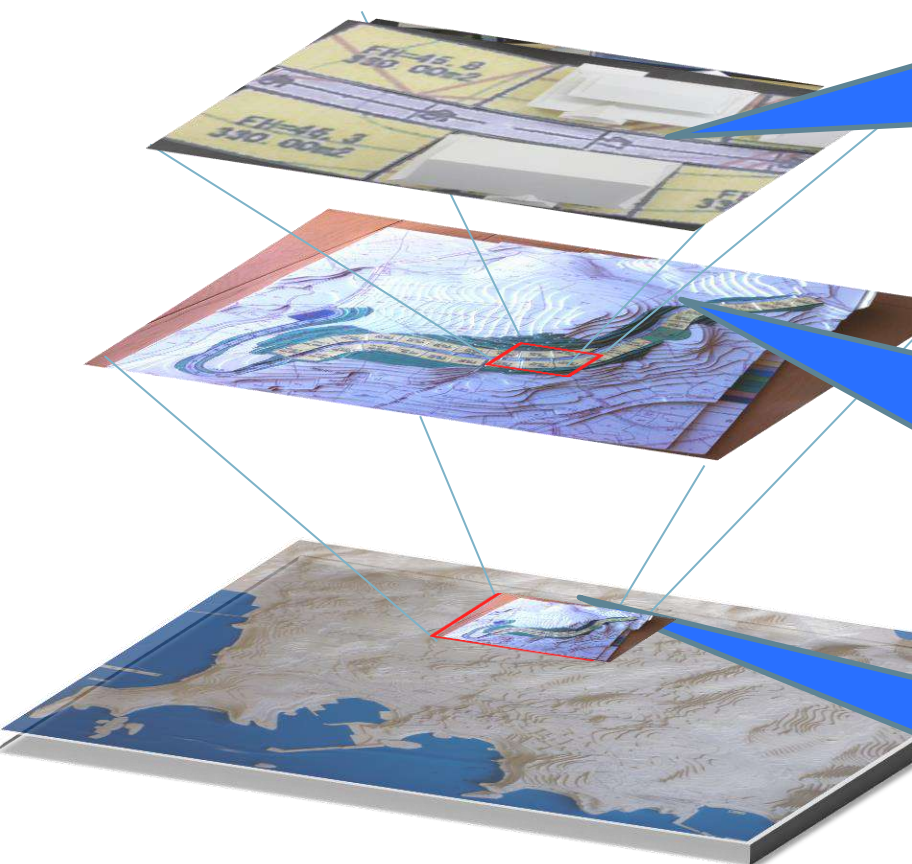


図 大船渡市による高所移転住宅団地 (案) 2012年5月

大船渡市の防集事業による高所移転住宅の1世帯当たりの画地が100坪に決定。この図面をもとにその画地の中での住宅再建案を検討していく。

高所移転を希望する住民が持っている高所移転住宅地及び再建住宅のイメージの明確化，共有化を図りながら，高所移転者の住宅再建の意向の抽出を行う。



住宅・敷地の使い方

- ・再建住宅への要望
- ・住宅地のまちなみ

住宅地の環境形成

- ・道路や公園等の配置
- ・共同倉庫や駐車場の設置
- ・住宅配置の調整による眺望の確保

住宅地の位置関係

- ・住宅地周辺環境
- ・既存集落との位置関係

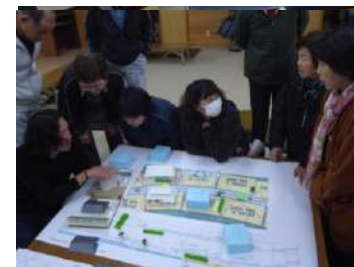
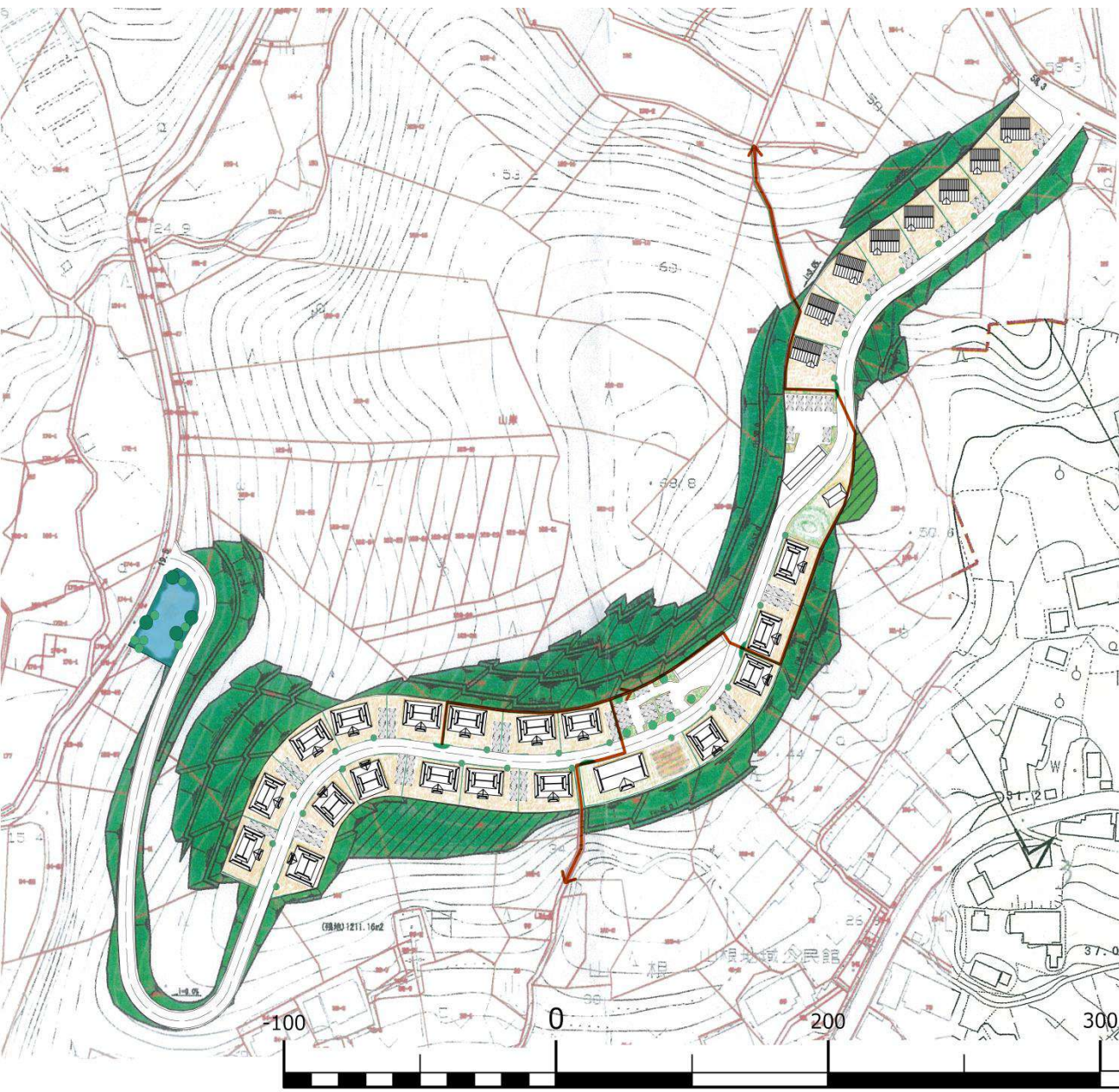




図 高所移転予定地の地形模型(1/1000)





	戸建住宅 (100㎡)
	戸建住宅 (90㎡)
	復興公営住宅
	駐車スペース
	集会施設
	共同倉庫
	あずま屋
	樹冠(高木)
	樹冠(低木)
	樹冠(椿)
	生垣

















図 研究室で作成した高所移転住宅団地の代替案

高所移転住宅地の環境形成に対する住民の合意形成度合い

表 高所移転住宅団地の構成要素への意向の合意傾向

・高台移転希望者:合計23名 自力再建希望者17名,復興公営希望者6名
 ・回答者数:合計20名 自力再建希望者15名,復興公営希望者5名
 ・回答について:保留・無記はカウントせず

凡例 自力再建希望者 
 復興公営希望者 

住宅地基盤設備	道路	区画道路	要求に対応した住宅地計画案の内容	提案に対する合意				合意傾向の分析結果
				提案に対して合意していない		提案に対して合意している		
				20	15	10	5	
住宅地基盤設備	道路	区画道路	①敷地の都合で不可能でなければ、車道とは別に歩道を設ける。不可能であれば、歩車共有道路(ボンエルフ)を考え、安全な道路とする。	0		19	「道路」環境については、ほぼ(19/20)合意が得られた(合意していないは、無し)。	
			②歩車共有道路とすることで、人が滞留できる空間を設置。	0		19		
		緑道(歩道)	③東側住宅群の北側道路を南側に変更。	0		19		
		歩行者専用道路	④住宅地の北側の山頂につながる道を整備する。	0		19		
			⑤住宅地と既存集落を結ぶ道を整備する。	0		19		
	公園・緑地	法面	●法面緑化工法により整備することで、人工物による圧迫感を解消し、敷地との一体感を演出する。一部にムロを設置。	2		11	「公園・緑地」環境については、半数程度の合意が得られた。	
		調整池	⑥多自然型工法により整備することで、ビオトープ親水空間的要素を取り入れた貯水池とする。	1		9		
		菜園	⑦公園は2ヶ所に設置。公園のひとつは広場的要素+東屋、ひとつは菜園・花壇的要素を持たせたデザインとする。	3		12		
		公園	⑧共同倉庫、もしくは倉庫群を住宅地の東西に設置する共同駐車場に併設する。	1		13		
		倉庫		1		13		
共同管理設備・施設	供給処理	●街灯などはソーラーパネルによるクリーン電力を使用。	0		15	街灯等へのソーラーパネル使用や電線の埋没設置では、半数以上の合意が得られた(合意していないは、無し)。		
		●送電、給排水などは、幹線道路下に共同溝を設置して対応。	0		12			
	浄化槽		1		11			
	エネルギー供給	●集中型チップボイラーによる地域冷暖房システムの導入。	6		5			
	駐車場	⑨住宅地の東西に1か所ずつ、共同の緑化駐車場を設置する。	0		18			
集会施設	作業所	⑩公園(菜園・花壇的要素)と併設し集会施設を設置。農村的住宅的な要素(作業場、半屋外空間、土間、厨房、広間)を持つデザインとする。	2		13	作業所や厨房を持つ集会施設については、半数以上の合意が得られた。		
	集会・厨房							

被災住宅の21戸の間取り分析：住み慣れた住宅に住みたい

高所移転者の被災以前の住宅間取りをヒアリング・アンケートから作成



図 基石地区の高所移転希望者の被災前住宅の間取り図(回答者:21世帯)

施設・住宅の模型写真

入り口から流れるように住宅が立ち並ぶ。丘の広場と菜園があり、奥に引き込まれるような配置。反対側には海と椿が見える。



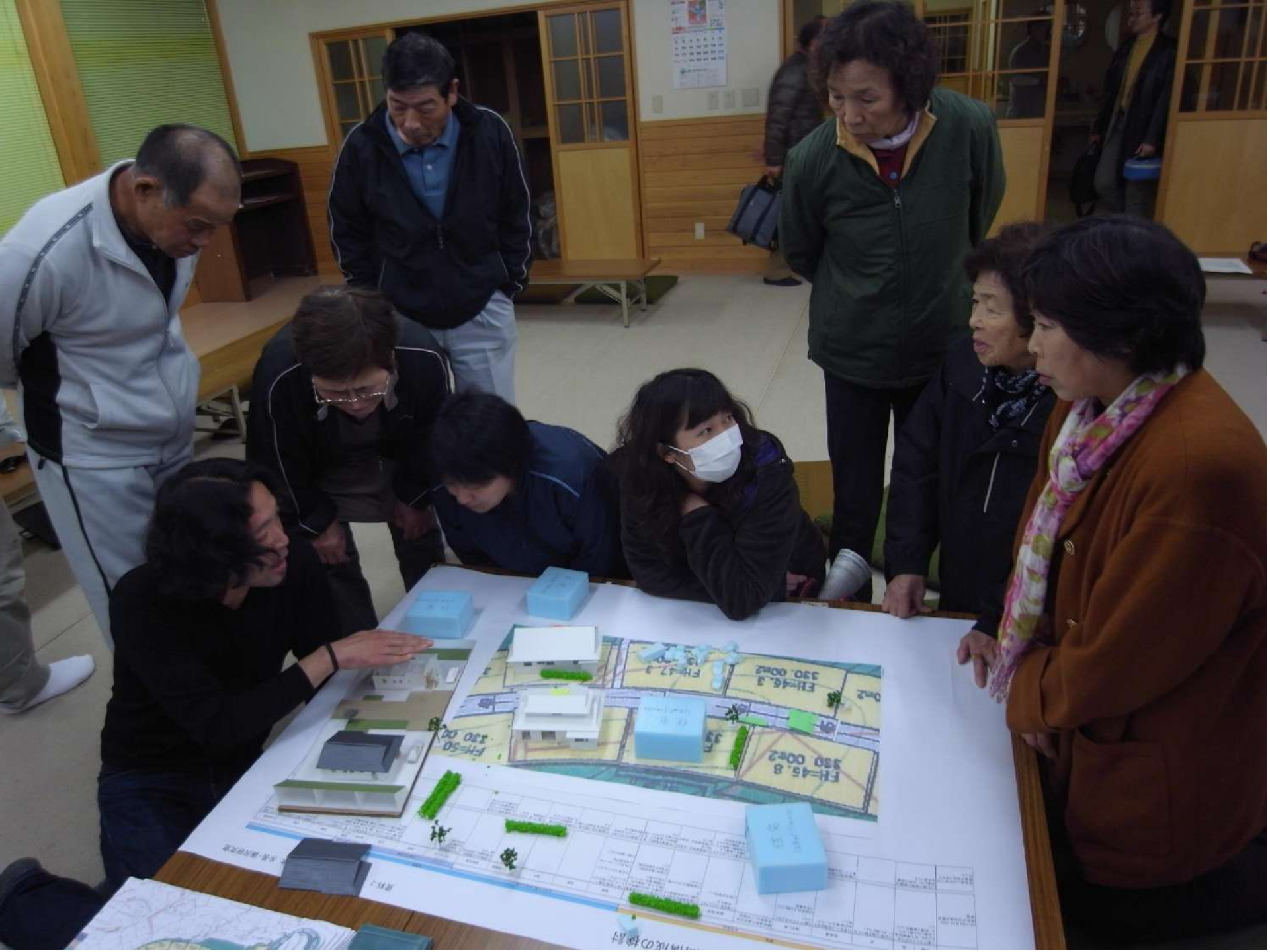
丘広場と菜園



椿園から施設入り口をのぞく



道路から住宅



建築家集団“リアスの風”によるモデル住宅案

Aプロットタイプ(4人家族住居27坪程度)

1階床面積: 58.80㎡ (17.78坪)
 2階床面積: 33.12㎡ (10.01坪)
 延べ床面積: 91.92㎡ (27.80坪)



Bプロットタイプ(4人家族住居30坪程度)

1階床面積: 53.82㎡ (16.82坪)
 2階床面積: 53.82㎡ (16.28坪)
 延べ床面積: 107.64㎡ (32.56坪)



1階平面図

2階平面図

Cプロットタイプ(7人家族住居)

1階床面積: 102.82㎡ (31.10坪)
 2階床面積: 57.73㎡ (17.46坪)
 延べ床面積: 160.55㎡ (48.56坪)



2階平面図

1階平面図

D公営住宅タイプ

床面積: 64.82㎡ (19.60坪)
 物置: 1.66
 床面積: 66.48㎡ (20.11坪)



2階平面図

家族構成別での再建住宅モデル提案・検討WS

【モデルプランの提案】

住宅復興部会での検討を元に最終プランとして下記の4タイプを作成。

- A. プロトタイプ(4人家族住居27坪程度)
- B. プロトタイプ(4人家族住居30坪程度)
- C. プロトタイプ(7人家族住居49坪程度)
- D. 復興公営住宅タイプ



図. 再建住宅モデルプラン
(模型作成：日大 西本)

<Cプロトタイプ>

- ・居間+台所のつながりが、家族団欒の場としてLDKの形で広く設けられた。
- ・要望の強かった縁側も機能的にサンルームとして、交流的な空間として濡れ縁の形で組み込まれた。
- ・農家的な暮らしに合わせ土間や納屋を設置。

2階 平面図

1階床面積：102.82㎡ (31.10坪)

2階床面積：57.73㎡ (17.46坪)

延べ床面積：160.55㎡ (48.56坪)

Cプロトタイプ(7人家族住居)



【協議会でのワークショップ方式での検討】



【津波被害地大船渡市碁石協議会での支援、高所移転住宅地建設等】

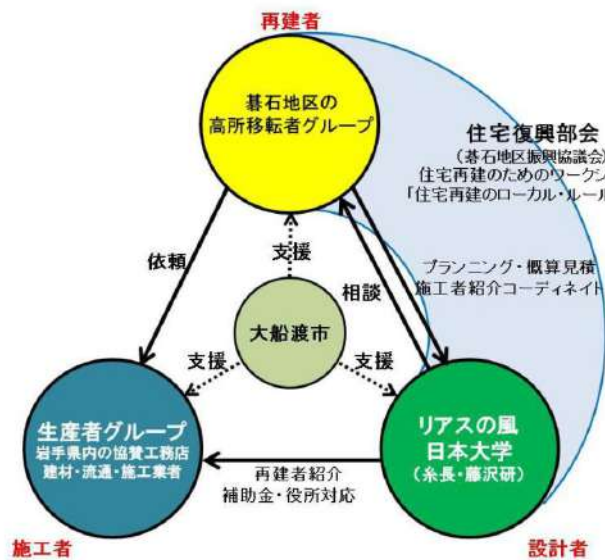
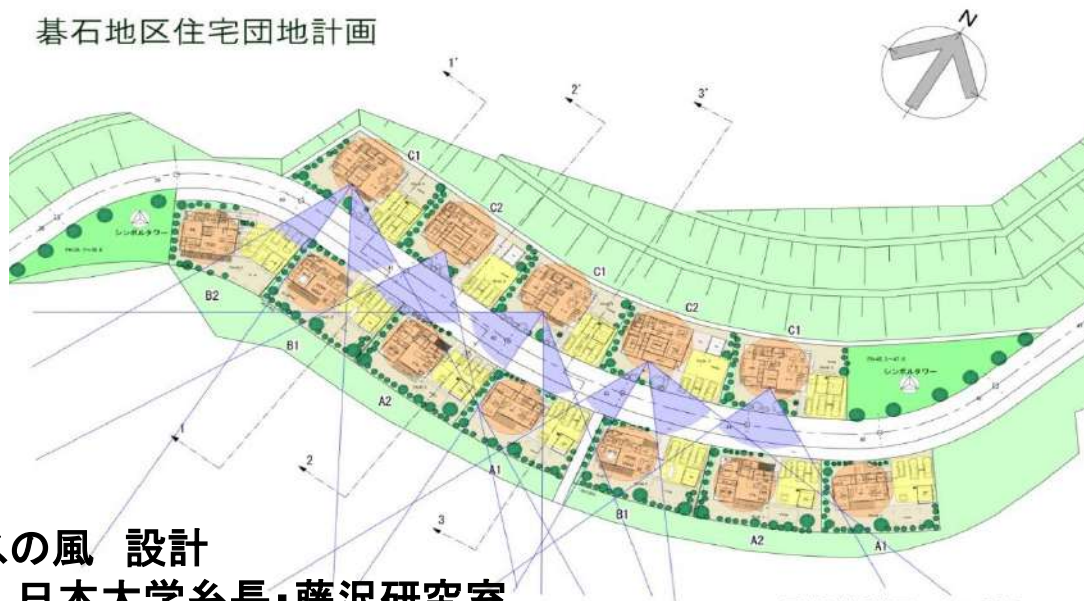


図 共同発注を実現する住宅再建の体制

碁石地区住宅団地計画



リアスの風 設計
協力 日本大学系長・藤沢研究室

景観検討図 1 : 500

碁石地区復興まちづくり計画 第一次提言書

～椿寿の浜里づくりを目指して～

潮騒と共に生きる美しいまちを子々孫々に！

平成25年8月26日

碁石地区復興まちづくり協議会



碁石地区復興まちづくり計画 一次提言書 を大船渡市長に提示



計画書の説明の後、大船渡市長“戸田公明”氏に手渡す。地元TVの取材も。

2013年8月26日，碁石地区の被災住民を中心とする
“碁石地区復興まちづくり協議会”の代表らは、
大船渡市長“戸田公明”氏に提言書を手渡した。

3 津波被災跡地利用計画 (図) とゾーニングの解説

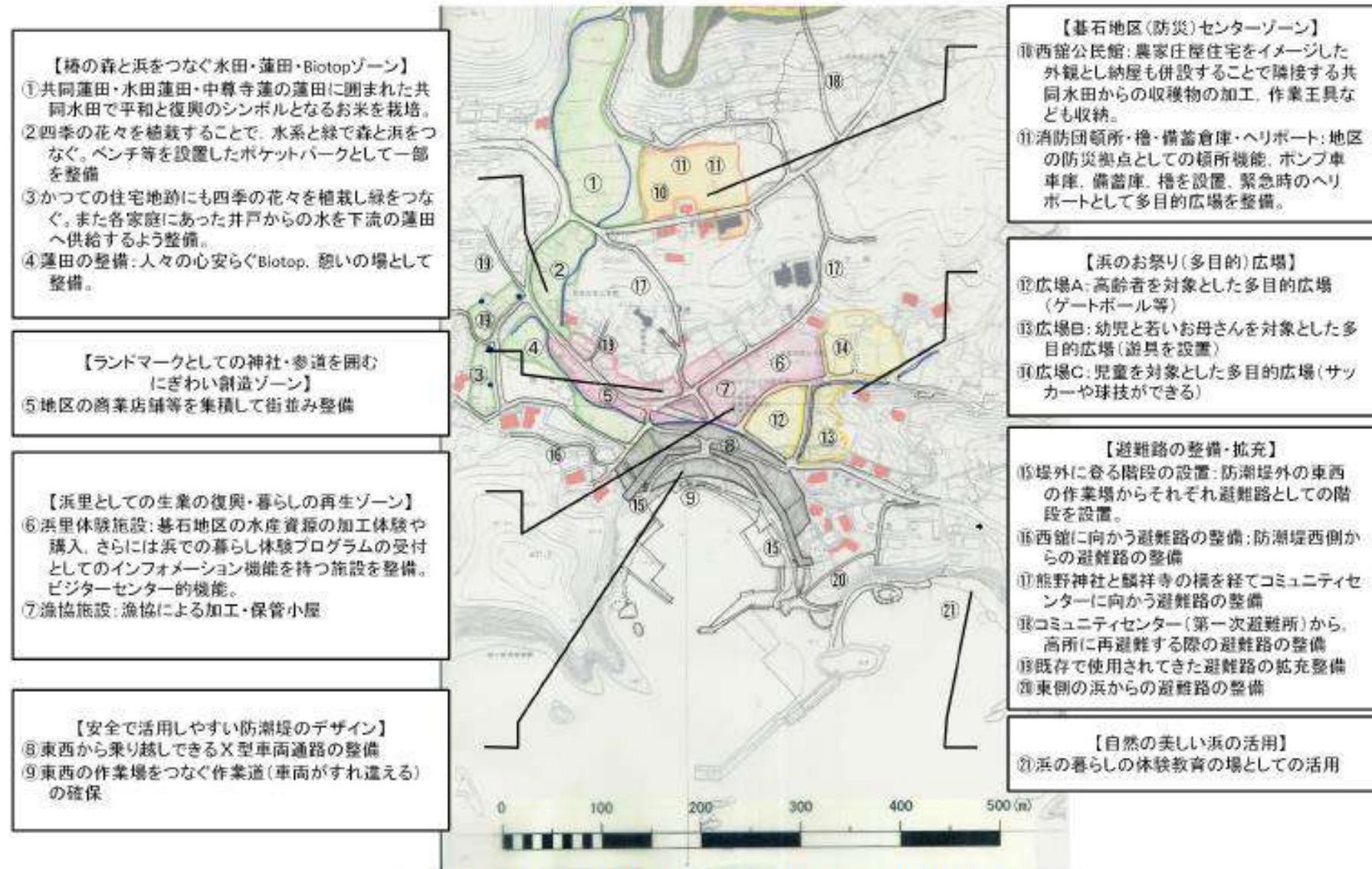


図 津波被災跡地での生業・暮らしの再生にむけた跡地利用計画

目 次

はじめに 復興への息吹と歩み

- 1 復興への息吹・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 復興の歩み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 3 学習会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 4 大船渡市との協議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第1章 計画の対象地区と復興まちづくりの基本方針

- 1 復興まちづくり計画の対象地区と世帯数・・・・・・・・・・・・・2
- 2 対象地区の復興方針図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 3 計画の策定体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第2章 景観や環境、新旧コミュニティに配慮した

高台移転住宅団地と再建住宅づくり計画

- 1 碁石らしさを継承・創造する高台移転住宅団地・・・・・・・・・・・・・4
- 2 高台移転住宅団地に建設する再建住宅のあり方・・・・・・・・・・・・・10
- 3 家族構成（ライフステージ）別での再建住宅モデル案・・・・・・・・・・・・・12
- 4 実現に向けた事業提案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

第3章 津波被災跡地での生業(なりわい)・

暮らしの再生にむけた跡地利用計画

- 1 碁石地区まちづくり原案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- 2 被災跡地の基盤整備と土地利用計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
- 3 津波被災跡地利用計画（図）とゾーニングの解説・・・・・・・・・・・・・19
- 4 実現に向けての事業提案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

第4章 気仙は一つ 復興広域計画

- 1 気仙27城巡り＝311大震災鎮魂の祈りコース・・・・・・・・・・・・・28
- 2 海と大地の悠久の歴史を巡る
太古から縄文、近世まで丸ごと案内ジオパーク・・・・・・・・・・・・・29

「ゆるぐにゃーども がんばりやすべ!

うんだたって、おりゃどのまちだかすぺど!」

碁石地区復興まちづくり協議会会長 大和田 東江

第1次提言書

貴職におかれましては、震災以来、復旧・復興に向け日夜のご努力に対して心からの感謝と敬意を表すものであります。

平成23年6月、第1回姿談会の場で、防災集団移転計画及び防災道路計画の提案以来、「碁石地区復興協議会」は地域づくりについて協議を重ねてまいりました。

平成23年12月、「碁石地区復興まちづくり協議会」を立ち上げ、今日まで21回の協議会を開催してきました。この中で防災集団移転計画案を策定し、行政当局提案まいりました。その結果、当局のご尽力により、計画の具体化の運びになったものと感謝致しております。

引き続き、碁石地区の復興まちづくりについて、専門家の皆様のご指導・ご助言を頂きながら「椿寿の浜里づくり」を目指し、今回の提言書を取り纏めたものであります。

この計画は現段階において考えられるものを取り纏めたものであり、構想段階のものもあります。また、未検討な課題も残されており、今後、さらに検討を重ね、より一層充実した復興まちづくり計画の策定に努めて参る所存ですが、ひとまず、第1次提言書として、碁石地区復興まちづくり協議会で取り纏めたものであります。

復興の基本的な考えをまとめた地区の総意であることをご理解頂き、実現に向け特段のご配慮を頂きますようお願い申し上げます。

2) 「浜里としての生業の復興・暮らしの再生ゾーンの整備」 & 「ランドマークとしての神社・参道を囲む、にぎわい創造ゾーンの整備」

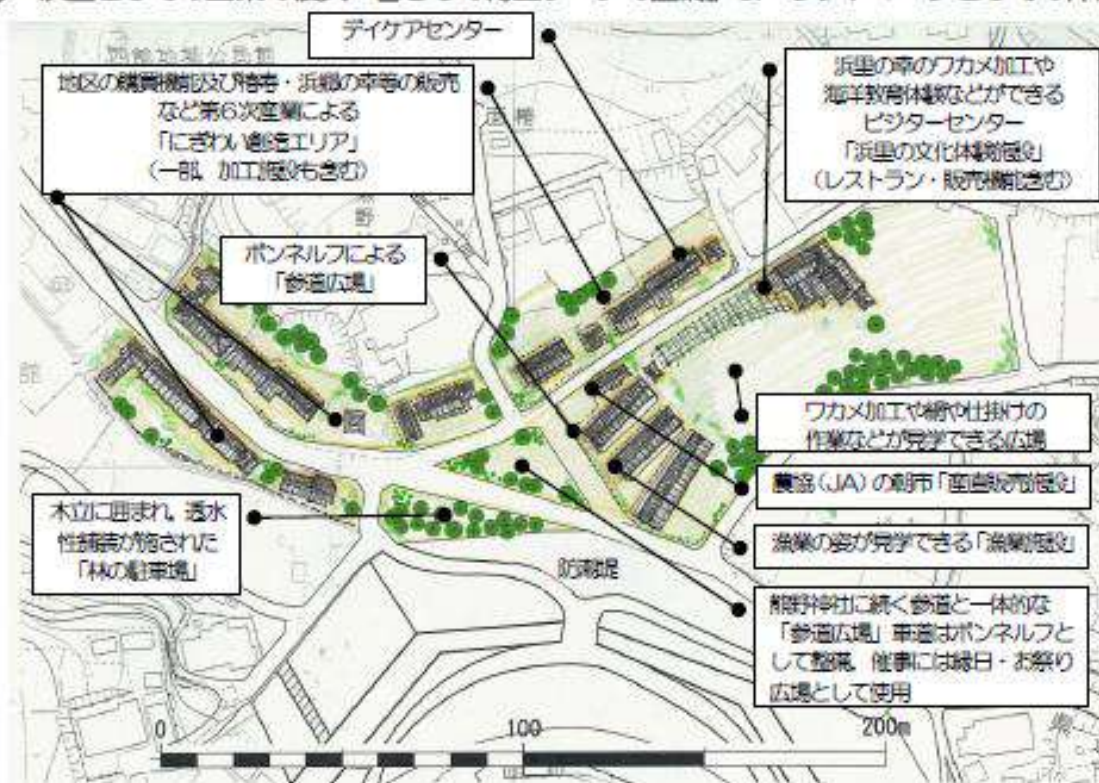


図 浜里としての生業の復興・暮らしの再生ゾーン & ランドマークとしての神社・参道を囲む、にぎわい創造ゾーン

【ゾーンの概要】

地区での生業・商業を展開するゾーンとして位置付けていきます。「浜里としての生業の復興・暮らしの再生ゾーン」と「ランドマークとしての神社・参道を囲む、にぎわい創造ゾーン」の2つを一体的に整備し、地域資源を活用した観光・エコツーリズムの展開による振興、日常の購買施設等の充実により地区のにぎわいを持たせます。

●「浜里の文化体験施設」エリア

地区の文化や産業、環境など観光のための窓口機能を担う施設。併設する漁協や農協や連携して産直販売コーナーや地産地消のレストランの機能を備えます。隣接する漁協や農協施設での加工作業等が見学できる「見せる作業場」により、地区の生業や文化を感じることが出来る施設配置・デザインとします。一部には大型バスの駐車スペースを設け、団体客の対応が可能な施設整備をおこないます。

●神社・参道を囲む「にぎわい創造」エリア

熊野神社を取り囲む道路沿いに商店を配置し、さらには浜から神社への参道沿いを「参道広場」として一体的に整備することで、緑日・お祭り広場のような、にぎわいを演出します。

観光客に対しての機能のみならず、地区住民の日常的な購買要求を満たす、生産食品販売や衣類服飾販売、散髪、パン屋やケーキ屋などがある商店街（一部、加工所を含む）としての機能を位置付けます。また、デイケア施設等の設置も位置付けます。



参道を囲む商店の街並みイメージ



浜の作業体験・産直施設イメージ

2 被災跡地の基盤整備と土地利用計画

復興まちづくり協議会は、地元案をもとに協議を重ね、以下のような基盤整備と土地利用計画をまとめました。

① 防潮堤について

防潮堤については、両側傾斜とし、作業道路を両方向から取り付けるものとする。また、設置位置に関しては、現行箇所よりややセットバックし、浜辺の回復を図るものとする。

② 門ノ浜・碁石線の形状修正

現状の門ノ浜・碁石線は、急カーブとなっており、危険であることからこの形状を修正し、スムーズ形状とする。

③ 生業・暮らしの復興の場としての泊里泊里浜の駐車場整備

漁協の作業場と隣接した場所に、食堂、売店、体験工房な、魚食文化普及施設などが設置された、(仮称) 泊里浜の駐車場を整備し、内外の人々が集う場とする。

④ 賑わいエリアの整備 (多目的広場・お祭り広場の整備)

熊野神社の参道を囲むゾーンに多目的広場・お祭り広場を整備し、平時はグランドゴルフ、ゲートボールのコートとして活用する。

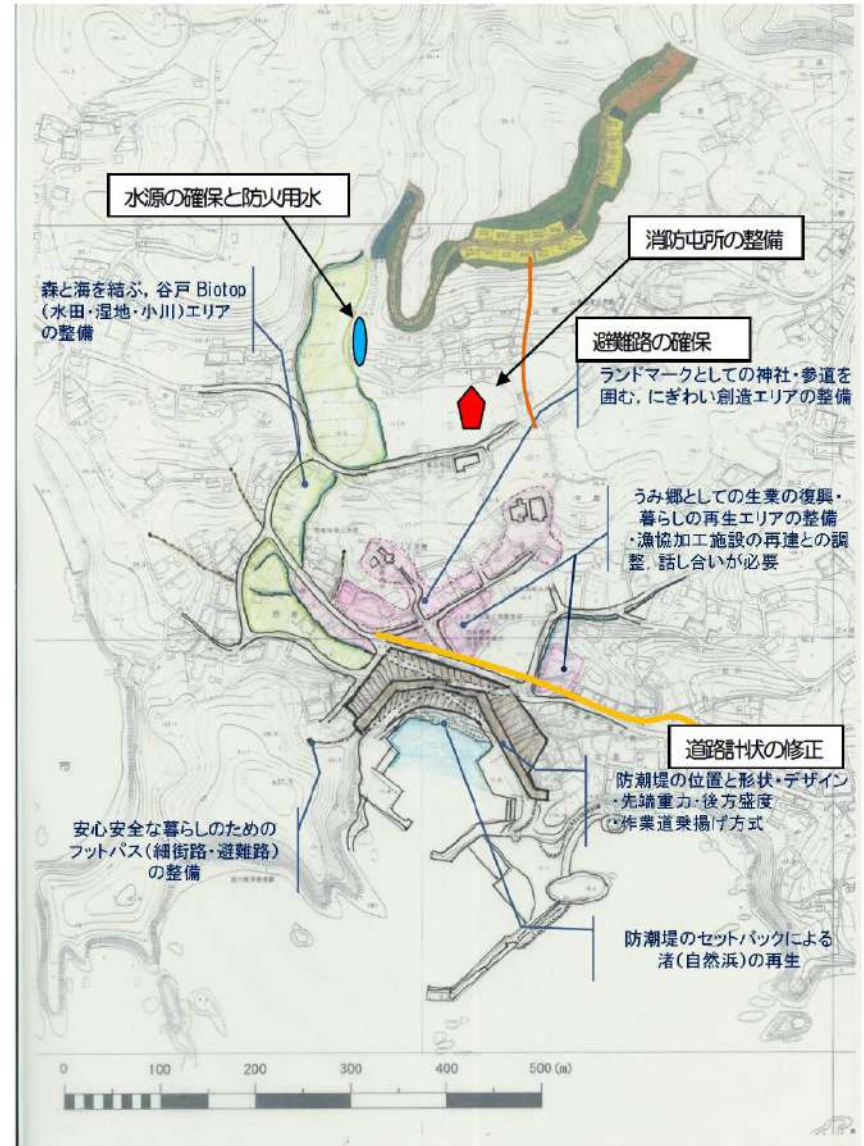
⑤ 森と海を結ぶ谷戸・ピオトープの整備

現状で湿地となっているエリアを野生の小動植物の生息地 (Biotope) として保全・整備するとともに、中尊寺蓮 (大賀蓮) を植え、鎮魂の池、蛭が飛び交う池とする。また、上流からの水路及び谷戸地を自然系に配慮した整備を行い、水質の保全を図るものとする。

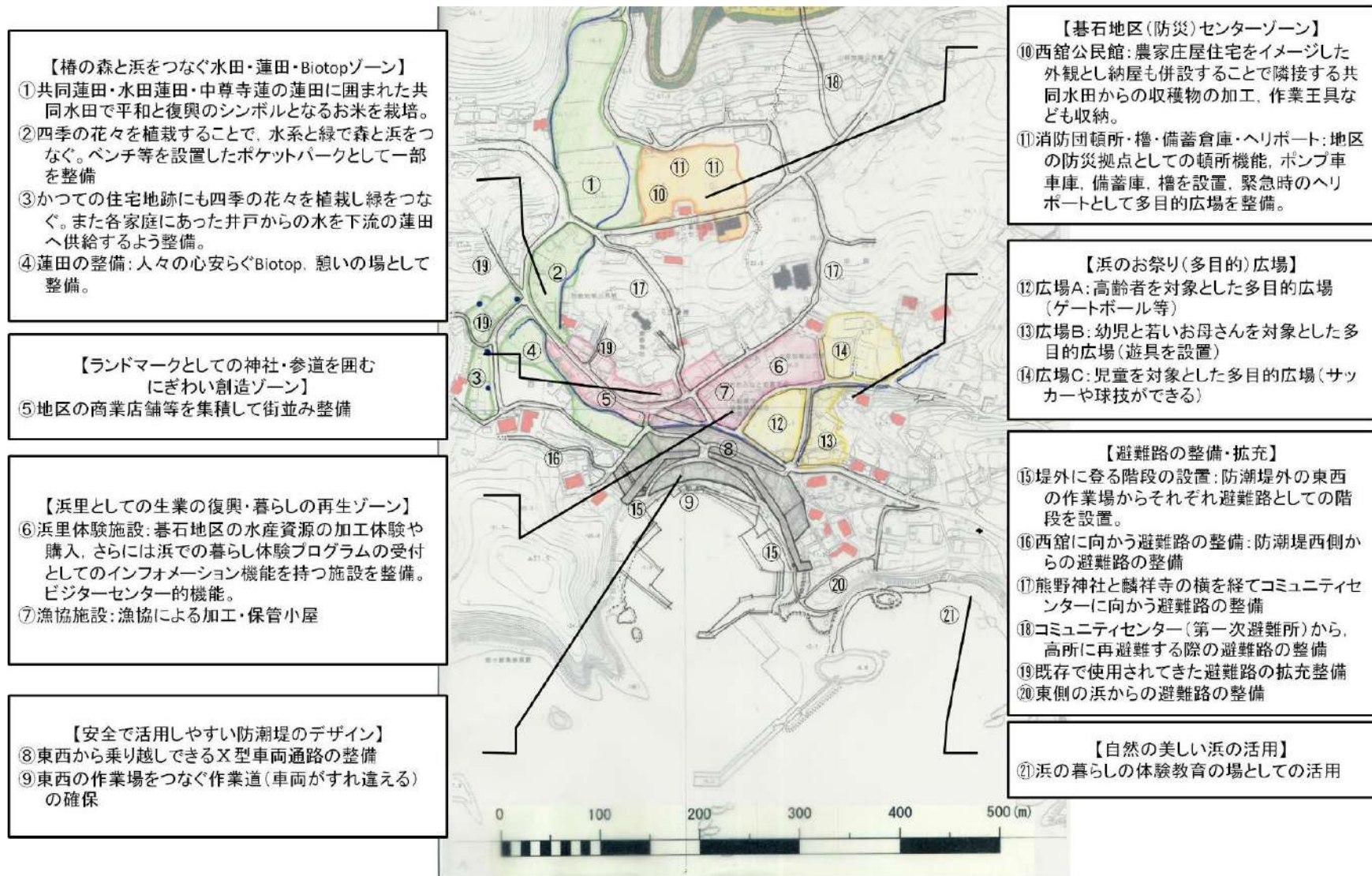
⑥ 安全・安心な暮らし確保のための避難路・防火用水・消防屯所の整備

集団移転促進事業による高所移転地区と既存集落及び浜や西館城 (末崎城) を結ぶ避難路を整備するとともに防火用水を整備する。

また、被災した消防格納車を集会・宿泊機能を有する消防屯所として整備する。



3 津波被災跡地利用計画 (図) とゾーニングの解説



【椿の森と浜をつなぐ水田・蓮田・Biotopゾーン】

- ① 共同蓮田・水田蓮田・中尊寺蓮の蓮田に囲まれた共同水田で平和と復興のシンボルとなるお米を栽培。
- ② 四季の花々を植栽することで、水系と緑で森と浜をつなぐ。ベンチ等を設置したポケットパークとして一部を整備
- ③ かつての住宅地跡にも四季の花々を植栽し緑をつなぐ。また各家庭にあった井戸からの水を下流の蓮田へ供給するよう整備。
- ④ 蓮田の整備: 人々の心安らぐBiotop、憩いの場として整備。

【ランドマークとしての神社・参道を囲むにぎわい創造ゾーン】

- ⑤ 地区の商業店舗等を集積して街並み整備

【浜里としての生業の復興・暮らしの再生ゾーン】

- ⑥ 浜里体験施設: 碓石地区の水産資源の加工体験や購入、さらには浜での暮らし体験プログラムの受付としてのインフォメーション機能を持つ施設を整備。ビジターセンター的機能。
- ⑦ 漁協施設: 漁協による加工・保管小屋

【安全で活用しやすい防潮堤のデザイン】

- ⑧ 東西から乗り越えられるX型車両通路の整備
- ⑨ 東西の作業場をつなぐ作業道(車両がすれ違える)の確保

【碓石地区(防災)センターゾーン】

- ⑩ 西館公民館: 農家庄屋住宅をイメージした外観とし納屋も併設することで隣接する共同水田からの収穫物の加工、作業用具なども収納。
- ⑪ 消防団頓所・櫓・備蓄倉庫・ヘリポート: 地区の防災拠点としての頓所機能、ポンプ車車庫、備蓄庫、櫓を設置、緊急時のヘリポートとして多目的広場を整備。

【浜のお祭り(多目的)広場】

- ⑫ 広場A: 高齢者を対象とした多目的広場(ゲートボール等)
- ⑬ 広場B: 幼児と若いお母さんを対象とした多目的広場(遊具を設置)
- ⑭ 広場C: 児童を対象とした多目的広場(サッカーや球技ができる)

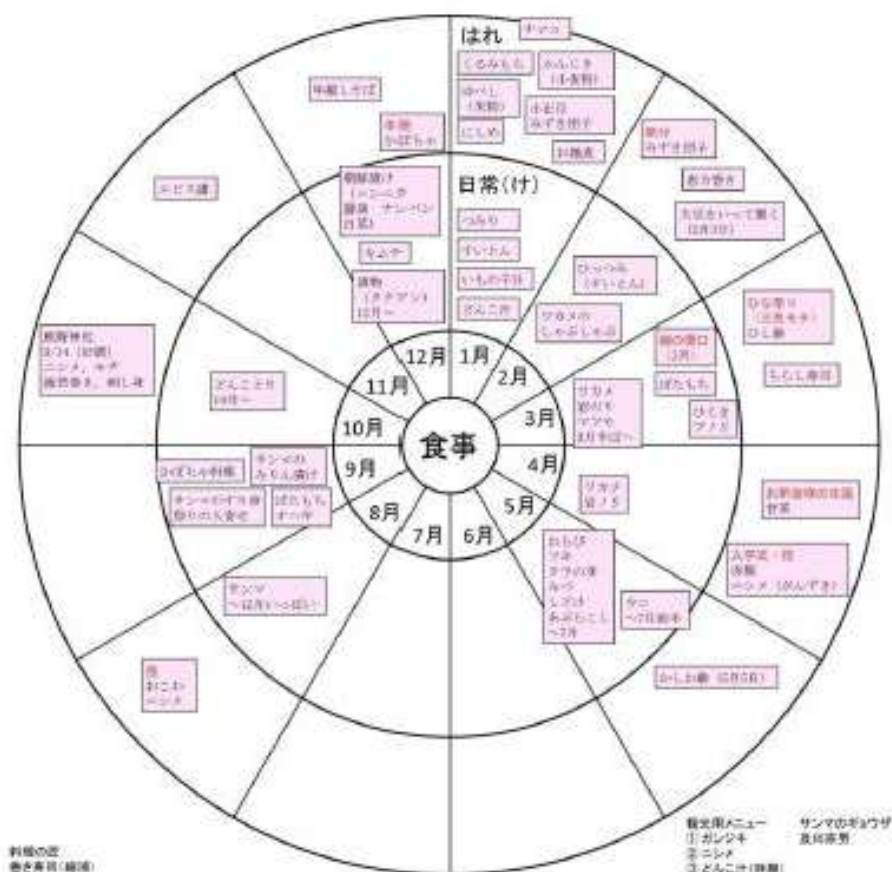
【避難路の整備・拡充】

- ⑮ 堤外に登る階段の設置: 防潮堤外の東西の作業場からそれぞれ避難路としての階段を設置。
- ⑯ 西館に向かう避難路の整備: 防潮堤西側からの避難路の整備
- ⑰ 熊野神社と麟祥寺の横を経てコミュニティセンターに向かう避難路の整備
- ⑱ コミュニティセンター(第一次避難所)から、高所に再避難する際の避難路の拡充整備
- ⑲ 既存で使用されてきた避難路の拡充整備
- ⑳ 東側の浜からの避難路の整備

【自然の美しい浜の活用】

- ㉑ 浜の暮らしの体験教育の場としての活用

図 津波被災跡地での生業・暮らしの再生にむけた跡地利用計画



食事	はれ	餅つき (そば+くわみもろ) 味噌漬物	5どん+和牛 (集まり) 行事	オジロギ(年中)
	日常(け)	カマメサ(年中) 小豆粉-クマエ	ワカメのくわみあし	サンマの刺身漬物 サンマ+青シソ ネギ+片揚げ

図 基石くらしの豊茶羅づくり 食事：はれと日常(け)

●ビシターセンター「浜里の文化体験施設」(レストラン・販売機能含む)での食事提供や体験プログラムとしての郷土食

協議会において女性の皆さんや魚屋さんとともに、基石地区の郷土料理、地区の行事・作業などについてのワークショップを数度にわたりおこない、豊茶羅図として作成しました。それらから抽出できた基石地区ならではの郷土料理・地域の作業などを地区の食文化体験として、ビシターセンターにて提供・体験プログラムとして提案できるようにします。

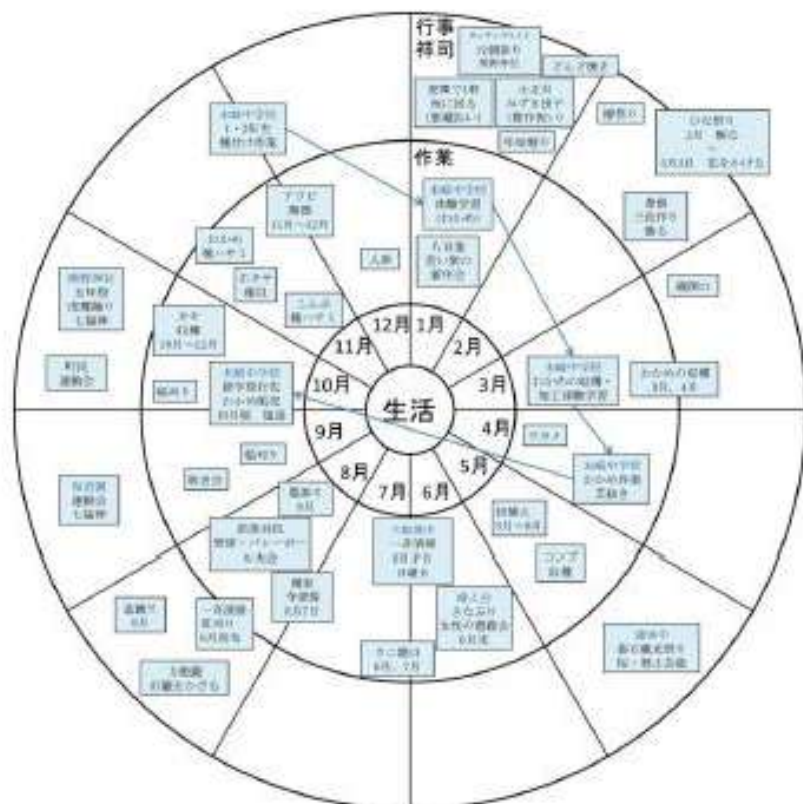
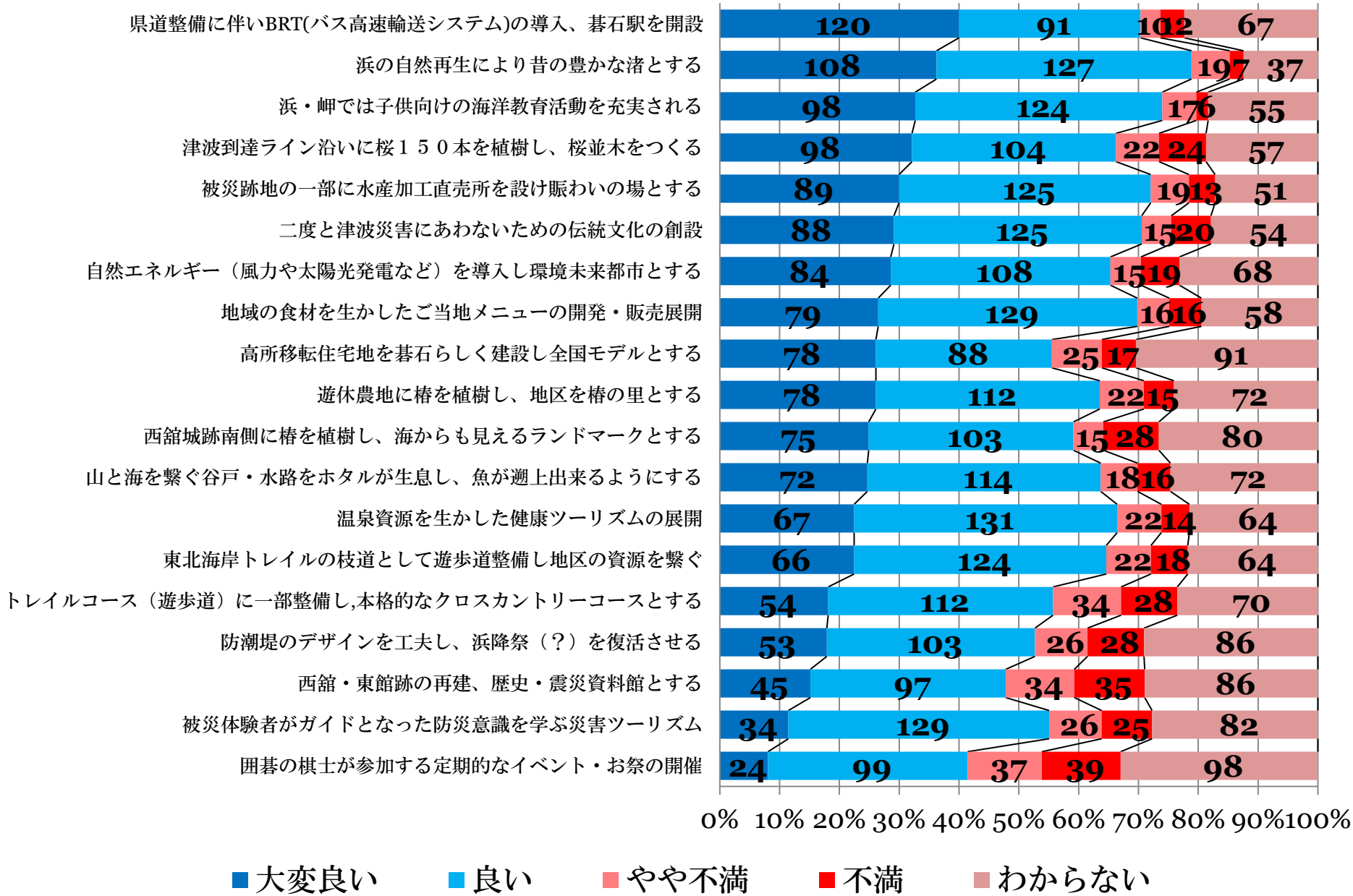


図 基石くらしの豊茶羅づくり 生活：行事と作業

●協議会での検討内容に対する住民の評価(SA)2014.06-07実施

回答数:367



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

■ 大変良い ■ 良い ■ やや不満 ■ 不満 ■ わからない

基石地区復興計画提言書 第二弾 2016年2月

●ランドマークとしての神社・参道を囲むにぎわい創造ゾーン

【ゾーンの考え方】

熊野神社や地区を代表する資源である県指定天然記念物の三面椿を取り囲む道路沿いに店舗や農産物の加工場などを配置し、地域のにぎわいの場として整備します。

⑥ 地域住民共同の作業場

椿を中心とした地場産品の地域住民共同の作業場として整備します。地区内での雇用の場と作業者（高齢者等）の集いの場としていきます。

⑦ 椿畑（椿栽培）

津波被災を受けた住宅跡地などに、「大船渡市の花、やぶ椿」を植栽し椿畑として整備します。また、やぶ椿の苗作りをする場所として活用し、椿の里の拡大を図ります。住宅地跡に残る井戸は、椿畑の灌漑用の水源としても保全していきます。

●浜里の文化再生ゾーン

【ゾーンの考え方】

漁協の作業場等が見学できる「見える作業場」の整備や祭礼などができる多目的の広場を通じ、地区の産業や文化を感じることができる空間とします。

⑧ 多目的広場（浜のお祭り広場）

日常的に運動ができ、わかめの養殖等の資材作成作業が出来る多目的の広場として整備します。また、いままで避難経路が懸念されてきた防潮堤の外で行われていた多くの観光客が訪れる祭礼の「防潮堤内の会場」として位置づけ、万一の津波来襲から人命を守ることができる広場としても整備します。これに合わせ野外舞台や水場、トイレなど施設も整備します。

●安全で活用しやすく、景観に配慮した防潮堤ゾーン

【ゾーンの考え方】

新しく設置される防潮堤は、その高さ幅ともに大きくなるため被災以前の土地利用や風景が大きく変化します。津波被災から命や財産をまもるためにも必要な防潮堤ですが、圧迫感がなく、海と浜里の暮らしが分断されないような防潮堤のデザインや機能に整備します。

⑨ 車が乗り越しできる車両通路の整備

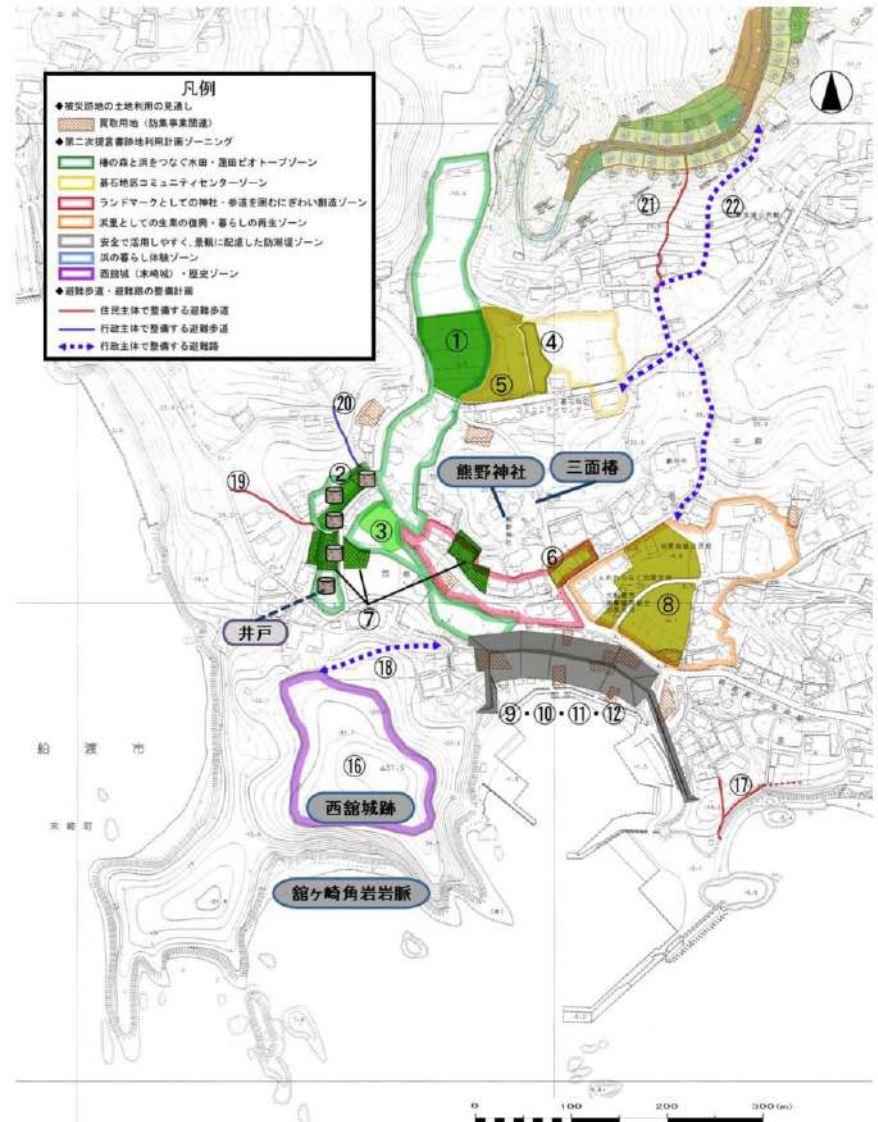
⑩ 堤外の東西にある作業場をつなぐ作業道（車両がすれ逢える）の確保

⑪ 景観配慮のため防潮堤の一部を海浜植物による緑化整備

コンクリートの法面の一部は緑化ブロックを使用し、基石地区に自生する海浜植物を中心に植栽し、西館城址から緑のつながりを作り、景観への配慮や防潮堤の圧迫感の軽減を図ります。

⑫ 堤外から天端に登る階段の設置（堤外の東西の作業場からそれぞれ階段を設置）

■津波被災跡地での生業・暮らしの再生にむけた跡地利用計画図（西館・泊里地区）



基石地区における計画的支援の概要と活動経過

2011年12月
～
2012年3月

第1期 状況や言語の共有化

住宅再建について、被災者が個々に抱える悩みや課題の整理、住宅再建に関わる制度などの解説・情報提供により、住宅再建の方法と意向の共有化を図る。

2012年4月
～
2012年12月

第2期 イメージ喚起と共有化(住宅地と住宅)

高所移転者が持っている高所移転住宅地の形状や情報を明確にすると共に、住宅地の環境形成に対するイメージの共有化を図る。

2012年12月
～
2013年6月

第3期 具体的な形と数値の共有化

高所移転者の住要求からモデル住宅として設計・提案し、高所移転者とのWSによる検討により、個々のニーズにそったモデル住宅を完成させると共に、高所移転住宅地のイメージの共有化を図る。

2013年10月
～
現在

第4期 調和したまち並みに向けた合意形成

モデル住宅を軸とした共同発注での住宅再建をふまえ、高所移転者主体の建設委員会での、高所移転住宅地での建築やまち並み形成での合意形成を図る

計画策定の進捗状況にあわせた段階的なテーマを設定し運営。検討材料とするためのヒアリングやアンケート、図面や模型を使用したデザインWSを実施。

高所移転住宅計画のための デザイン・ワークショップを振り返って

2011年12月
～
2012年3月

第1期 状況や言語の共有化

住宅再建について、被災者が個々に抱える悩みや課題の整理、住宅再建に関わる制度などの解説・情報提供により、住宅再建の方法と意向の共有化を図る。

2012年4月
～
2012年12月

第2期 イメージ喚起と共有化(住宅地と住宅)

高所移転者が持っている高所移転住宅地の形状や情報を明確にすると共に、住宅地の環境形成に対するイメージの共有化を図る。

2012年12月
～
2013年6月

第3期 具体的な形と数値の共有化

高所移転者の住要求からモデル住宅として設計・提案し、高所移転者とのWSによる検討により、個々のニーズにそったモデル住宅を完成させると共に、高所移転住宅地のイメージの共有化を図る。

2013年10月
～
現在

第4期 調和したまち並みに向けた合意形成

モデル住宅を軸とした共同発注での住宅再建をふまえ、高所移転者主体の建設委員会での、高所移転住宅地での建築やまち並み形成での合意形成を図る

碁石地区高所移転住宅地建設委員会

(21世帯+顧問：日大系長・藤沢研，防災まちづくり支援機構，弁護士)

規約：平成25年11月3日施行，平成26年7月27日一部改訂，平成26年9月7日一部修正

建築及びまちづくり協定：平成25年12月7日，平成26年7月27日一部改訂，平成26年9月7日に部修正



図 共同発注方式を含んだ高所移転住宅地建設の住民組織体制の構築

体制構築のために提案・作成支援により策定した「規約・協定・誓約書」の概要

- ・規約：「泊里地区 防災集団移転促進事業」により大船渡市末崎町字山根地内に高所移転住宅地を建設することを目的として設置される碁石地区高所移転住宅地建設委員会の運営について必要な事項を定めるもの。
- ・建築及びまちづくり協定：復興まちづくり計画の基本理念に基づき住宅及びその他の建築物の建設，樹木の設置等に関するルールや，居住後における生活環境等の協定暮らしのマナーについて高所移転住宅地内に居住する全員で共有し守るために定めたルール。
- ・誓約書：防災集団移転促進事業により造成される住宅地において，戸建住宅を建設する6戸の住宅建設において，設計及び施工に関して共同で行うことを目的としたもの。

共同発注方式での住宅再建の意義

デザインWSを通じてあがった共同発注方式での住宅再建の要求について、モデルプラン作成によって、より具体性が高まってきた。

＜共同発注の目的＞

設計・材料・設備・施工の共同発注方式の住宅再建により、以下の効果を目指す。

- i) 共同発注方式による建材のコスト削減と人工の確保
- ii) 共同発注による建設材料の共通化による街並み・景観形成
- iii) 住宅建設の同時期着工による施主間の格差削減，コミュニティ形成への配慮

種別	設計	施行	戸数
自立建設住宅17戸	共同発注 (リアスの風)	共同 材料・設備・施行	6戸
	個別発注: 設計から施工まで (ハウスメーカー・他の工務店)		11戸
復興公営住宅6戸	UR設計←リアスの風協力		6戸

